

iD14 mkII

10in | 6out [USB3.0対応]
オーディオインターフェイス

Manual v1.3

AUDIENT

audient iD14mkII

Audient ASP8024 Heritage Editionコンソールのマイク・プリアンプ、独立チャンネルの JFET D.I、最高品位のAD/DA コンバーター、 Audient独自のScroll Control、iD ファミリーの『音質基準』をそのままに、バス・パワードで実現。

「すべてのクリエイター、シンガーソングライターが、最初の段階から【リリース・クオリティ】でどこでも録音を始められること。それが iD14 をデザインするに至ったバックグラウンドでした。」 Audient テクニカル・ディレクター Tom Waterman氏

iD14mkIIは、音楽やサウンドメイキングに携わるクリエイターが、必要とする全ての機能をコンパクトかつ、エレガントにまとめた、完全プロ仕様の 『Creator’s Box』です。

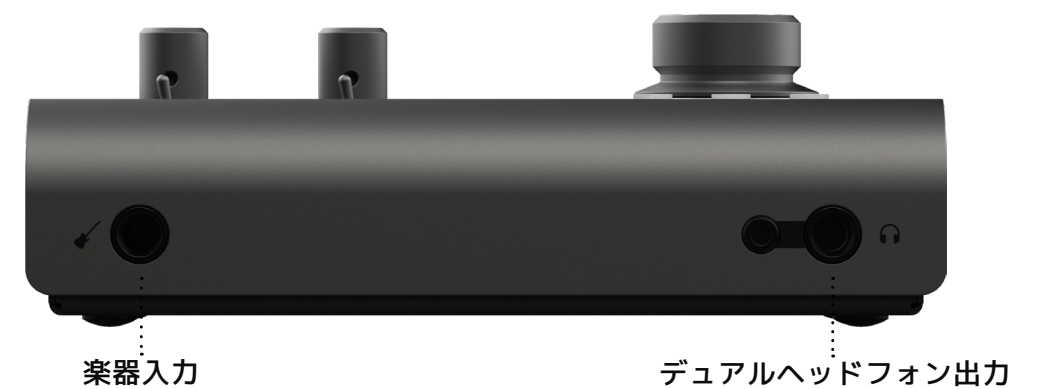
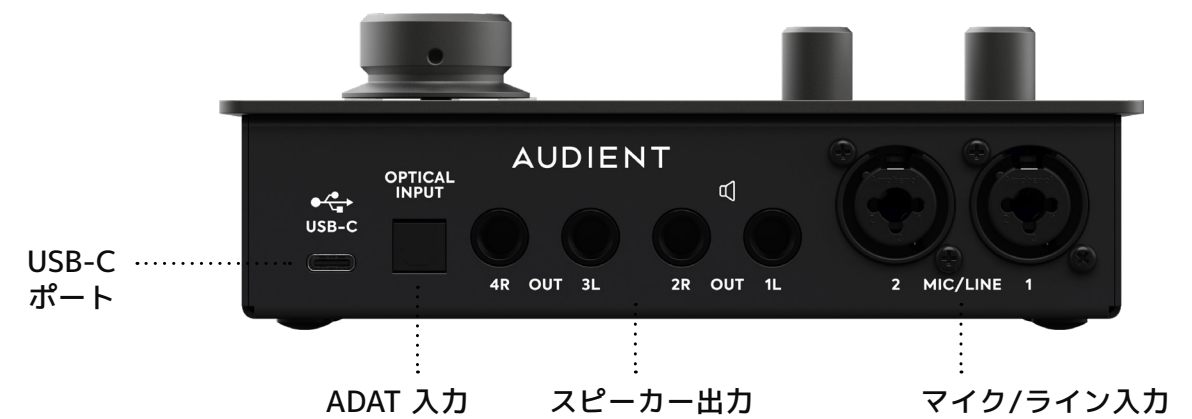
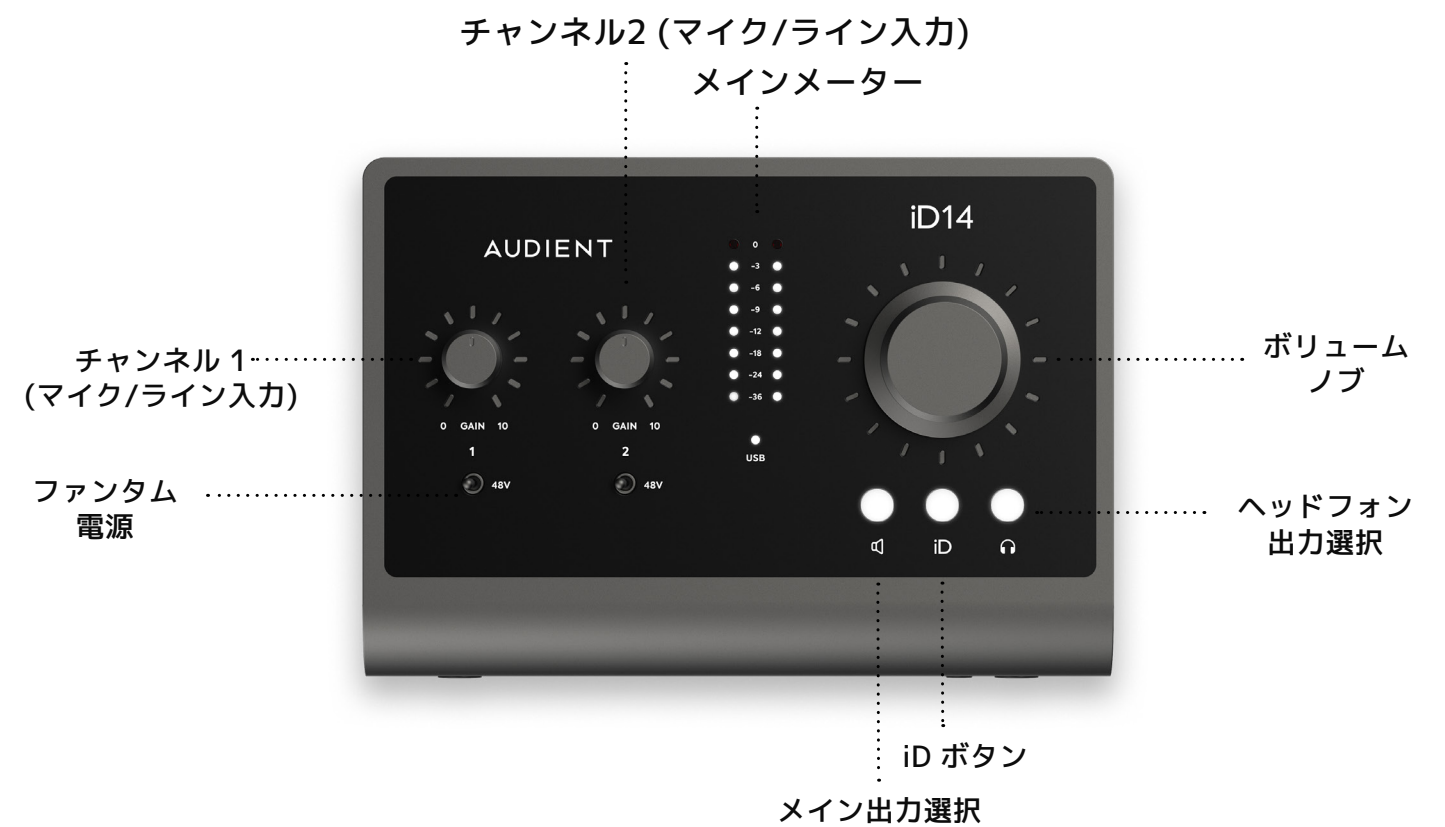
同梱物:	主な特長:
<ul style="list-style-type: none">iD14mkII本体USB-C to USB-C cableQuick Start Guide	<ul style="list-style-type: none">2 × Audient コンソールマイク・プリアンプ高性能AD/DA コンバーター1 × JFETインストルメント入力4 × ライン出力デュアルヘッドフォン出力拡張用 ADAT 入力超ローレイテンシーのソフトウェアミキサー進化したモニターコントロールiDスクロールコントロールファンタム電源USB 3.0対応フルメタルシャーシFreeソフトウェア&プラグイン
ソフトウェア・ダウンロードURL	
https://audient.com/products/audio-interfaces/id14/downloads/	
日本語マニュアル・ダウンロードURL	
https://allaccess.co.jp/audient/id14mk2/	



目次

iD14mkIIの概要	4	DAWの設定	37
		Pro Tools の設定	38
		Logic Pro の設定	39
		Cubase/Nuendo の設定	41
		Ableton Live の設定	42
安全にご使用頂くための注意	6	トラブルシューティング & FAQ	43
インストール方法	8	製品仕様	46
Mac の場合	9	品質保証に関して	47
Windows の場合	11	サイズ	49
ミキサーアプリとファームウェアアップデート	13		
ハードウェアについて	14		
マイクプリアンプ&ライン入力	15		
楽器入力	16		
ヘッドフォン出力	16		
デジタル入力	17		
スピーカー出力	18		
モニターコントロール	18		
メーター	19		
Kensington ロック	19		
iD Mixerアプリケーション	20		
入力チャンネル - チャンネルタイプ	21		
チャンネル仕様	23		
マスターセクション	24		
システムパネル	27		
トークバックソース	30		
ミキサープリセットのセーブ&ローディング	31		
メニュー/タスク・バー・アイコン	32		
オーディオ・ループバック	34		
キーボードショートカット	36		

iD14 mkIIの概要



安全にご使用頂くための注意

付属のUSBケーブルから機器に給電する前に、マニュアル中のインストラクションや注意点をよくお読みください。

本機は高電圧で動作はしませんが、電気ショックや火災が起きないように安全な使用法に忠実に従ってください。

故障と思われるような症状が発生しても、本体を開けないでください。
その際はまずaudientのサポート : audient@allaccess.co.jpにコンタクトしてください。

audient@allaccess.co.jp

- 01

マニュアルをよく読んでください。
- 02

マニュアルを保管しましょう。
- 03

『注意や警告』を守りましょう。
- 04

インストラクションには従ってください。
- 05

水の近くや湿気の多い場所で使用しないでください。
- 06

クリーニングは乾いた布だけ使用してください。
- 07

ヒーター、ストーブやアンプなど高温を発する場所や機材の上で使用しないでください。
- 08

本機に接続されているケーブル類にご注意ください。
- 09

本機と使用するアクセサリ等は、メーカーが認可したものを使用してください。
- 10

近くで雷が発生していたり、長い期間本機を使用しない時は、コンピューターの電源をお切りください。本機とコンピューターとの接続ケーブルも外してください。
- 11

水分がかかったり、故障だと思われる時に本機を開けないでください。
製品の修理は認可されたサービス機関でのみ修理可能です。
その際はまずサポート : audient@allaccess.co.jpにコンタクトしてください。



WARNING

感電などの事故が発生しないように、水の近くや湿気の多い場所では本機を使用しないでください。

インストール方法

MacOS の場合

動作環境

OS:Mac OS10.11.6 (El Capitan) 以降
CPU : Intel CPUまたはApple Silicon CPU
メモリ : 1GB RAM 以上

セットアップ

1. 最新のiD Mixerアプリを、以下のリンクからダウンロード。

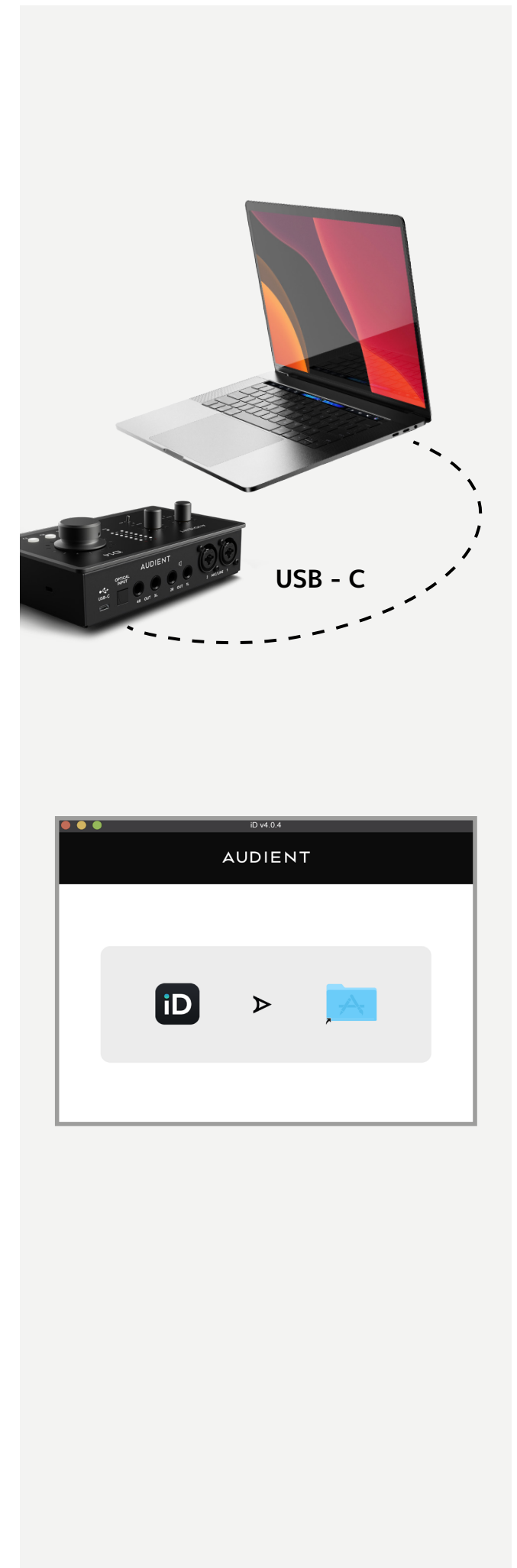
<https://audient.com/products/audio-interfaces/id14/downloads/>

※ 製品一覧から iD14 を選択しDownloadのタブをクリックします。

ダウンロードしたアプリをフォルダーにインストールしてください。

2. iD14 mkIIに接続

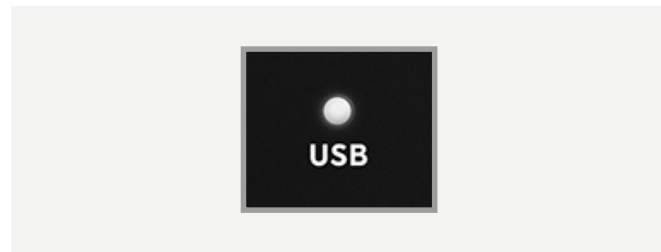
付属のUSB-CケーブルでiD14mkIIをMacのUSBポートに接続してください。



MacOS の場合（続き）

3. ステータスLED

通常の操作中にステータスLEDが消灯した場合は、すべての接続を確認し、さらに問題が発生した場合はAudientサポートにお問い合わせください。

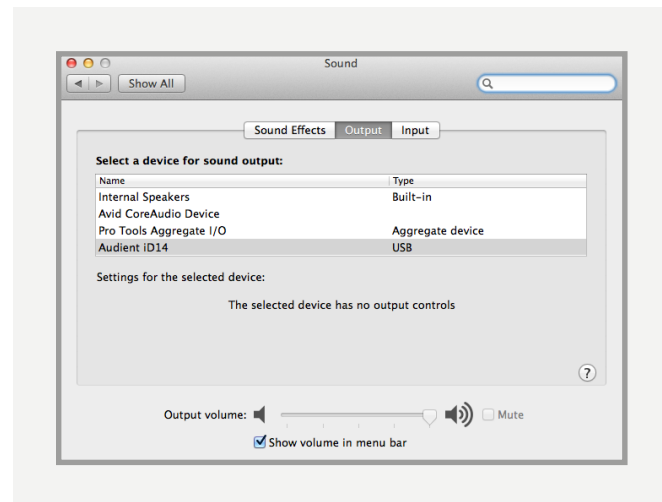


4. 接続の確認

iD14がI/Oデバイスとして設定されていることを確認してください。システムサウンドは無効にすることをお勧めします。

「システム環境設定＞サウンド＞出力」から「iD14」をオーディオデバイスに選択してください。

同様にお使いになるDAWソフトウェアでも「iD14」を選択してください。DAWに関する設定は後のセクションをご覧ください。



5. iD Mixerを開く

iDソフトウェアを起動して、メニューバーで「ミキサーを開く」を選びます。



Windowsの場合

動作環境

OS:Windows 10 以降 (32bit or 64bit)

CPU : Intel Core 2 @ 1.6 GHzまたは同等のAMDプロセッサ

メモリ：1 GB RAM 以上

セットアップ

1. 最新のiD Windows Driverを、以下のリンクからダウンロード

<https://audient.com/products/audio-interfaces/id14/downloads/>

※ 製品一覧からWindows driversを選択しDownloadをクリック。

ダウンロードしたアプリをフォルダーにインストールしてください。

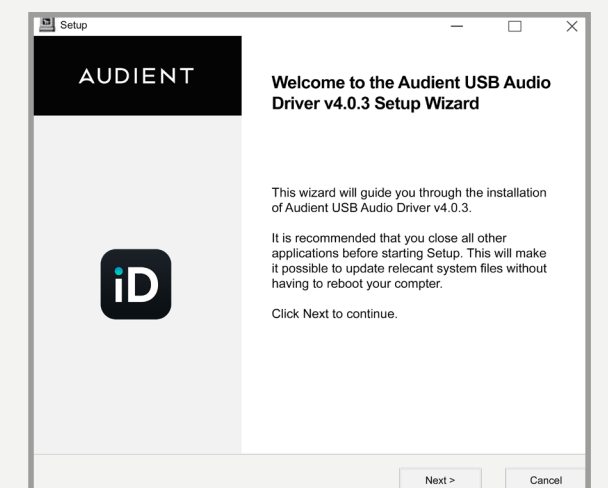
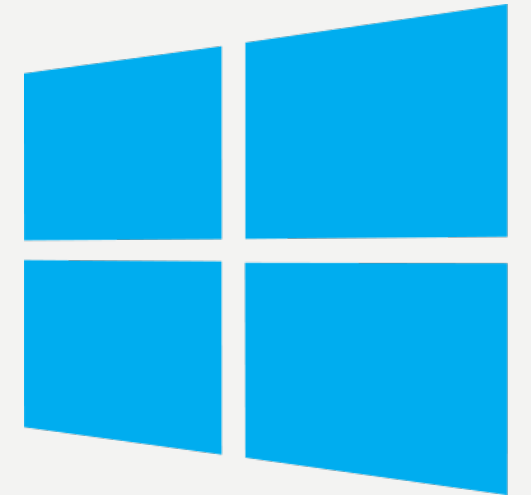
2. iD14 mkIIに接続

付属のUSB-CケーブルでiD14mkIIをPCのUSBポートに接続してください。

3. iDミキサーセットアップの実行

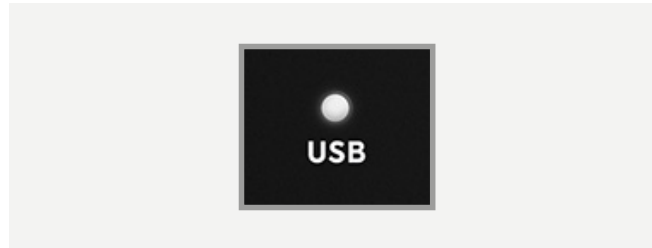
インストーラーをダブルクリックしてiDミキサーセットアップを実行し、画面の指示に従います。

すべてのドライバーの適用を確認するために、PCを再起動します。



Windowsの場合(続き)

4. 接続の確認



iD14が安定した通信を確立するとすぐにUSBステータスLEDが点灯し、電源を切るまで本体の動作中は点灯し続けます。

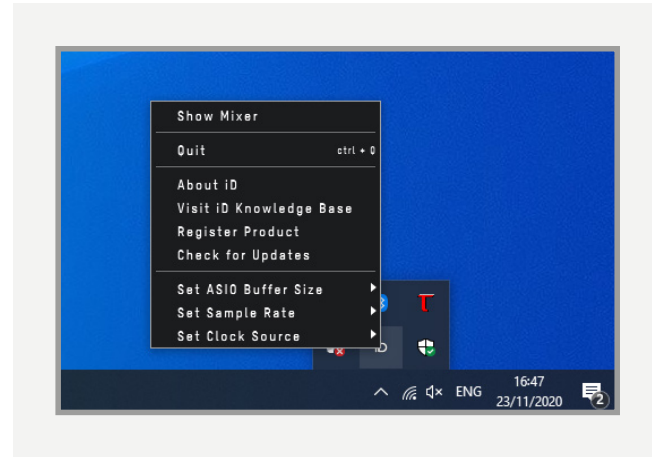
接続を再確認するには、以下の手順でPCのサウンド設定を開いてください。

PC設定 > コントロールパネル > ハードウェアとサウンド > サウンド の順に行います。

ここで、iD14がPCに認識されているかが確認できます。また、「Set Default/デフォルトに設定」を押すと、iD14をコンピューターのデフォルトのサウンドデバイスに設定できます。

5. iD アイコン

インストールが完了すると、iDアイコンがWindowsのシステムトレイに表示されます（隠しアイコン領域にある場合もあります）。



- ・iD14 Mixerウィンドウをダブルクリックで開きます。
- ・右クリックでサンプルレートとバッファサイズの変更を行います。

ミキシングにはバッファサイズを256に設定すると最適でしょう。トラッキングには低いバッファサイズを試してみましょう。お使いのコンピューターの処理能力や、プラグインやバーチャルインストルメント、使用チャンネル数によって、適正バッファサイズは異なります。

ミキサーアプリとファームウェアアップデート

iD Mixerアプリケーションを起動する

iD Mixerアプリケーションは、以下のフォルダーにあります。

【Macintoshの場合】

Macintosh HD > アプリケーション > iD

【Windowsの場合】

スタート > すべてのプログラム > Audient > iD

ミキサー アプリケーションの機能セットの詳細については、このマニュアルの[21ページ](#)以降を参照してください。

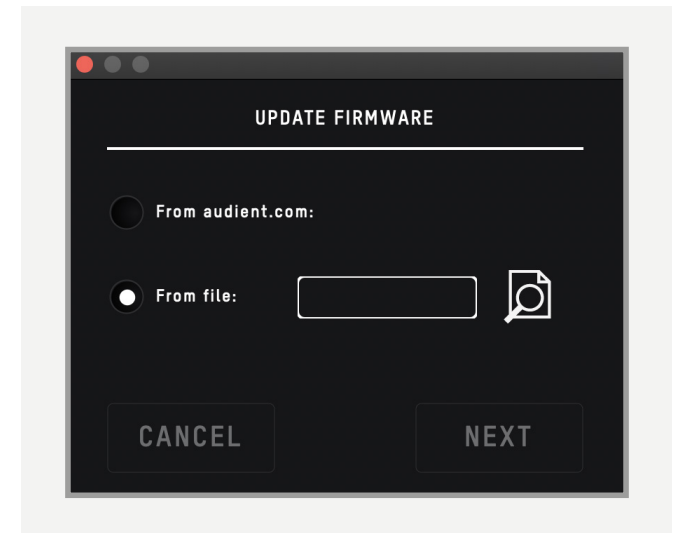


ファームウェア・アップデートの確認

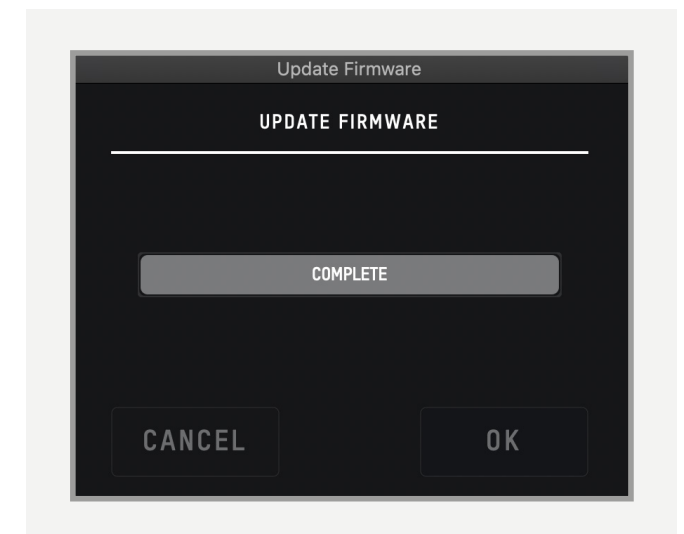
コンピューターがインターネットに接続されている場合、iDアプリはユニットが接続されるたびにファームウェアのアップデートを確認します。ファームウェアのアップデートが利用可能な場合は、iDアプリから通知されます。

ヘルプメニューから「アップデートを確認」を選択すると、手動でアップデートが確認できます。ファームウェアが最新バージョンの場合は通知されません。

ファームウェアのアップデートがある場合は、「From audient.com /audient.com から」を選択して最新バージョンを自動的にダウンロードできます（または「From file/ファイルから」を選択してローカルファームウェアファイルをインストールできます）。



最新のバージョンNo.がサーバーから取得され、上図のように表示されます。「next/次へ」を押してファームウェアのアップデートを続行してください。「update/アップデート」を押してインストールしてください。



ハードウェアについて

マイクプリアンプ&ライン入力

iD14は、Audientのクラシックコンソール マイクプリアンプを2基搭載しています。これらのプリアンプはAudientのクラシックコンソールの設計に基づいており、iDインターフェースシリーズ全機種に搭載されているものと同じです。

ディスクリットClass-A回路を採用し、極めて低い歪みとノイズ性能を実現しています。音質面では、iD14はスピード感があり、開放的で、ディテールに富んだサウンドを提供します。

両マイク&ライン入力は、Amphenol™ XLR/TRSジャックコンビコネクターを採用しています。ライン入力は、マイクプリアンプを経過したパッドされます。



[マイクプリアンプの仕様]

- ・ 56dB のクリーン・ゲイン
 - ・ 8V (±4V) ファンタム電源 (チャンネル毎/ 10mA)
 - ・ > 2.8k Ω 入力インピーダンス
- マイクの種類に関わらず、パンチのあるサウンドが得られる インピーダンスに設定しました。

+10dB ブーストや極性反転などの追加機能は、iDアプリからアクセスできます ([23ページ](#)を参照)。



楽器入力

「D.I.」入力端子は、JFET採用のクラスAディスクリート・デザインの楽器用入力です。このDI入力には、エレキギター、エレアコやシンセサイザーが入力できます。このJFET回路はクラシックな真空管アンプの入力部分をベースにデザインされており、リッチなハーモニクスを含んだサウンドを生み出します。

このTS（アンバランス・チップ、スリーブ）ジャックに接続すると、チャンネル1が楽器入力になります。この入力はマイク/ライン入力よりも優先され、出力されます。位相反転スイッチはマイクを併用する時に、10dBブーストは信号レベルが小さい時に使用します。



ヘッドフォン出力

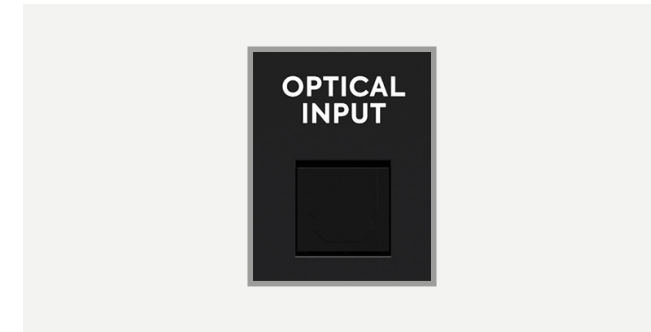
前面に設けられたヘッドフォン出力端子は、接続するヘッドフォンインピーダンスの影響を受けにくい、ディスクリート高電流型アンプを搭載しています。標準プラグとステレオミニジャックの両方を備えており、同信号を2基のヘッドフォンへ同時駆動することが可能です。また、スピーカーとの同時モニタリング、アーティストヘッドフォンミックスも可能です。



ヘッドフォン出力は、広範囲のヘッドフォンインピーダンスでも快適に駆動できるため、どのヘッドフォンでも優れた音質が得られます。

デジタル入力

iD14はオプト入力を備えています。iDミキサーアプリケーションのシステムパネルから、ステレオオプトS/PDIFまたは8チャンネルADAT (SMUX) として動作するように設定できます。どちらのフォーマットも最大96kHzのサンプルレートで動作します。



S/PDIF モードで実行すると、最大 96kHz の 2 チャンネルのオーディオが可能になります。

ADATモードの動作では、オプト入力はAudient ASP800などの外部マイクプリアンプを接続しの録音の際、10入力に拡張する優れた手段となります。88.2kHzおよび96kHzのサンプルレートを使用する場合は、デジタル入力は4チャンネルのみとなります（ADATのハイサンプルレートでの動作のため）。

システム クロッキングの詳細については、[28ページ](#)以降を参照してください。

スピーカー出力

iD14mkIIの背面パネルには、バランスのTRSジャックコネクターステレオスピーカー出力を2つ備えています。出力は、フラッグシップコンソールであるASP8024と同じトポロジーを採用したインピーダンスバランス設計です。

力は高品質の DAC（デジタル アナログ コンバーター）から供給され、クリーンでリニアなオーディオがスピーカーに送られるので、重要なリスニングに最適です。



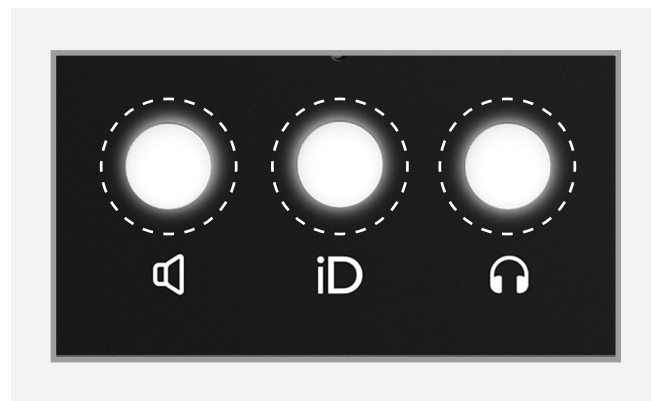
これらの出力はスピーカー以外にも使用できます。例えば、複数のミュージシャンで専用のヘッドフォンアンプを使用する場合、これらの出力の1つ、または複数に接続できます。この使用法はiDミキサーソフトウェアで設定できます。

モニターコントロール

iD14mkIIはAudientの大型コンソールと同等のモニタリング・コントロール機能を備えています。各モニターの音量は、カスタムアルミ製エンコーダーとエンコーダーボタンで操作します。

これにより、ヘッドフォン出力とスピーカー出力のバランスを個別に調整し、マッチングさせることが可能です。

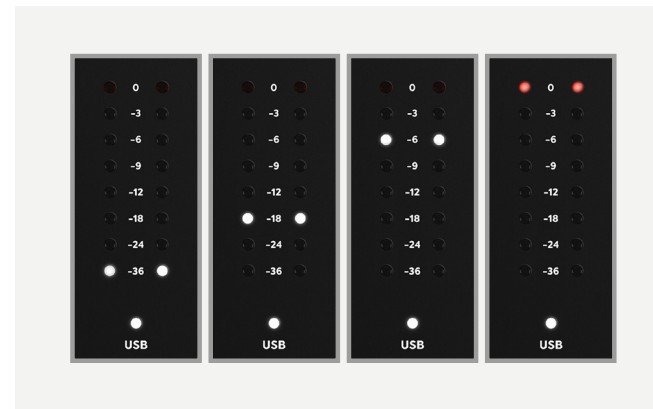
3つのエンコーダーボタンはエンコーダーのモード選択用に用意されています。選択されたボタンが点灯します。



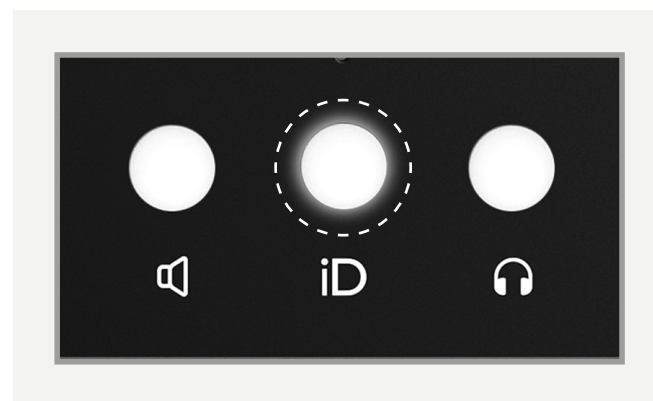
スピーカー&ヘッドフォンボタン

スピーカーボタン(右)、ヘッドフォンボタン(左)を選択すると、それぞれの出力レベルが調整できます。

エンコーダーを押すとそれぞれの出力がミュートされます。ミュート状態の時には、エンコーダーボタンが点滅します。



iDボタン

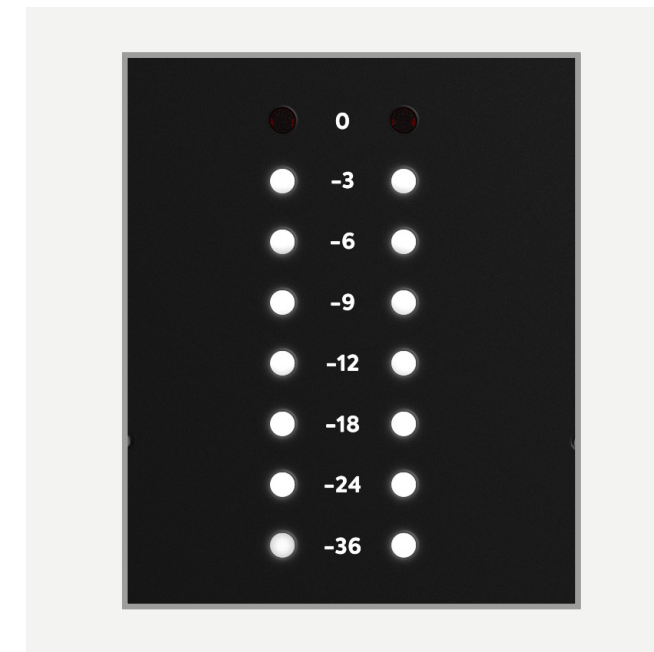


iDボタンは、iD14mkIIの特筆すべき機能の一つ『ScrollControlモード』のアサインが可能です。エンコーダーにスクロール・ホイール機能をアサインして、DAWのオートメーション等、様々な機能へのアクセスかを可能にしてくれます。

また、ファンクション（トークバックや位相反転等）のアサインボタンとしても使用できます。iDボタンにこれらのファンクションがアサインされている状態では、エンコーダーは直前に選択された音量をコントロールします。iDボタンのアサインはiDアプリで行います。

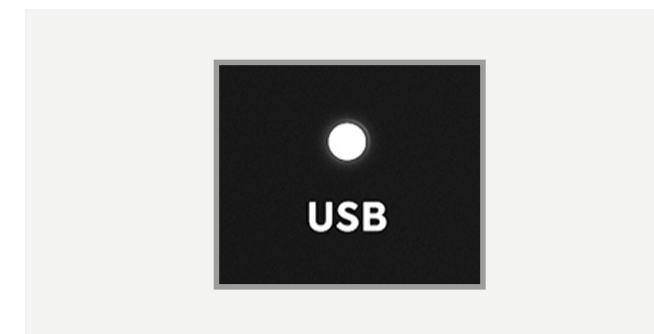
メーター

8段階のLEDメーターが搭載されています。このピークメーターは、iD Mixerアプリのプレイバックレベルを表示します。この場合、入力レベルにはDAWのメーターの使用をお勧めします。



ステータス LED

このLEDは、iD14mkIIとコンピューターのUSB経由の接続状態を表示します。安定した接続時には明るく点灯します。



Kensington ロック

iD14mkIIの側面にはケンジントン・ロック取付け用の穴があります。学校や設備で使用する際の盗難防止に活用してください。



iD Mixer アプリケーション

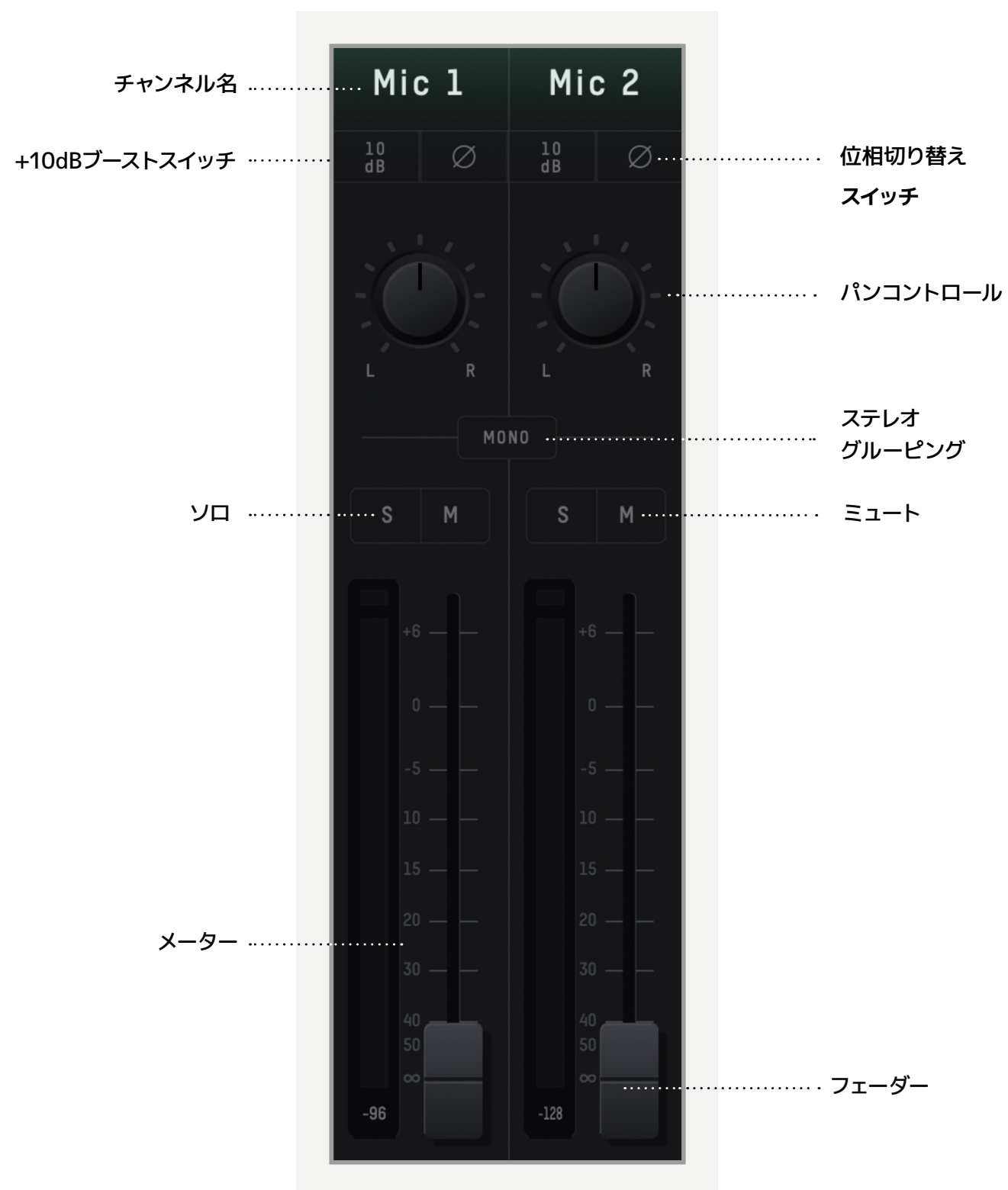
入力チャンネル - チャンネルタイプ

チャンネル毎に3タイプの入力を選択できます。

- マイク入力：
2つのアナログ入力
- デジタル入力：
オプティカル入力からの信号。デジタル入力信号
タイプ (SPDIF、ADAT) とサンプルレートにより、
アプリに表示されます。
- Dawリターン：
DAWからのプレイバック信号です。本機には6つ
のリターン信号があり、Cueミックスやアウトボード
へのセンドに設定できます。

これら3種類のチャンネルタイプを使用すると、メイ
ンのモニターミックスと最大2つのキューミックスが
構築できます。

iDミキサーアプリケーションは、iD14のモニタリング
のみをコントロールする点にご注意ください。iDミキ
サーアプリケーションで行った変更は、DAWやオー
ディオソフトウェアのレベルには影響しません。



チャンネル仕様

チャンネル名

ダブルクリックで、キック、スネアのように命名でき、整理もできて便利です。

位相切り替えスイッチ

信号の位相が反転できるスイッチです。ギターアンプのリアにマイクを立てたり、スネアの反対面のマイキングの位相切り替えに使えます。

パンコントロール

メインモニターやCueミックスのL/R設定を行うパンコントロールです。

ステレオグルーピング

隣り合った2つのチャンネルをステレオにグルーピングして、両チャンネルを1本のフェーダーでコントロールします。ステレオグルーピングされると、自動的に信号はL/Rにパンニングされます。

+10dBブーストスイッチ

このスイッチを押すと、低い録音ソース信号が+10dB上がります。このレベルの変化はDAWへも影響します。

ソロ

ソロボタンは他のチャンネル信号をミュートします。

ミュート

ミュートボタンはそのチャンネル信号をミュートします。

フェーダー

選択されているミックスへの信号レベルを+6dB～オフの範囲で調整します。

チャンネルメーター

このメーターは信号レベルをdBFS（フルスケールレベル）で表示します。0dBFSを超えるピーク信号はレッドに表示されます。このピーク表示はクリックして消すことができます。また、Alt + Clickでもピーク表示を消すことができます。

マスターセクション



ミックスの選択

変更を行うミックスを選びます。すると、そのミックスの追加コントロールが現れます。

Cueミックスの名前

Cueミックスをダブルクリックすると、その名前が表示され変更が可能になります。例えば、4人のバンドメンバーそれぞれに異なるCueミックスを作るのであれば、Drummer、Guitarist、Bassist...と命名できます。

ミックスソロ

このソロボタンで各Cueミックスのモニターが可能 です。

ミックスレベル

出力されているCueミックスのレベルがコントロール できます。

ミックスメーター

選択されているミックスの信号レベル表示です。

クロノメーター

クロノメーターは現信号レベルのみでなく、数秒前か らの信号レベル変化を読み取ることができます。 トラックダウンの時のトランジェント信号のモニター や、Cueミックスのレベル変化のモニタリングに有 効です。

チャンネルビュー

これら3つのボタンはチャンネルのタイプを選択し ます。

例：デジタル入力を使用していない時は、OPTコントロールの クリックしてオプティカルチャンネルを隠すことも可能です。

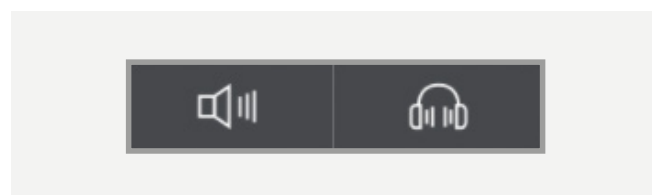
モニターコントロール

本機には、モニターコントロール機能が6種類のボタンに分かれています。各機能については下記をご覧ください。

- **TB (トークバック)**
トークバックボタンでトークバックのオン/オフが可能です。詳しいセッティングは『システムパネル』のセクションをご覧ください。
- **ø (フェーズスイッチ)**
ステレオ信号の片側の位相を反転します。この機能はモノスイッチと併用して、センター定位の信号を取り除きたい時に使います。ミックスに埋もれた信号をモニターするのに便利な機能です。
- **モノ**
このスイッチをオンにするとステレオ出力がモノラルになります。出力がモノ再生される時のチェックが簡単に行えます。
- **オルタネート**
モニターパスを切り替えて、異なるモニターセッ
トで確認する時に用います。どの出力を‘ALT’
モニターして選択するかは、システムパネル内で
行います。
- **DIM**
プリセットしたレベルまで出力を即座に下げること
ができるスイッチです。セッション中にコミュニ
ケーションをとる場合に役立つ機能です。

モニター&ヘッドフォンミュート

モニター出力またはヘッドフォン出力をミュートする機能です。アイコンがミュート状態を表示します。



システムパネル



デジタル入力フォーマット

ADATまたはS/PDIFの使用を選択します。

クロックソース

クロックソースは、内部クロック（本機）またはオプティカルが選択できます。詳しくはクロックセクションをご覧ください。

外部 Clock Source を使用している時は、セレクターの横の表示はクロックのステータスを表示します。

- レッド - クロック信号が認識できていない状態です。
- イエロー - クロック信号は認識していますが、サンプルレートが異なる状態です
- グリーン - 正常に動作しており、iD14がクロックシンク（同期）している状態です。

外部クロックと同期して正常に動作してほしい場合は、表示がグリーンであることを確認してください。グリーン表示されない場合は、本機は同期まで内部クロックで動作します。

モノモード

iD14のモノラル機能がオンになっている場合、このオプションはモノラル信号を左、右、または両方のモニターに送るかを制御します。

Dimレベル

Dim機能がオンになった時に下げるレベル値を決定するコントロールです。

Alt スピーカーレベル

Alt スピーカーモードで切り替えた時、レベル設定のアップ/ダウンを決めるコントロールです。接続している異なるスピーカーブランド間のバランス調整です。

出力ルーティングセクション

アナログ出力、デジタル出力1、トークバックチャンネルのルーティングマトリクスを開きます。

iDモード

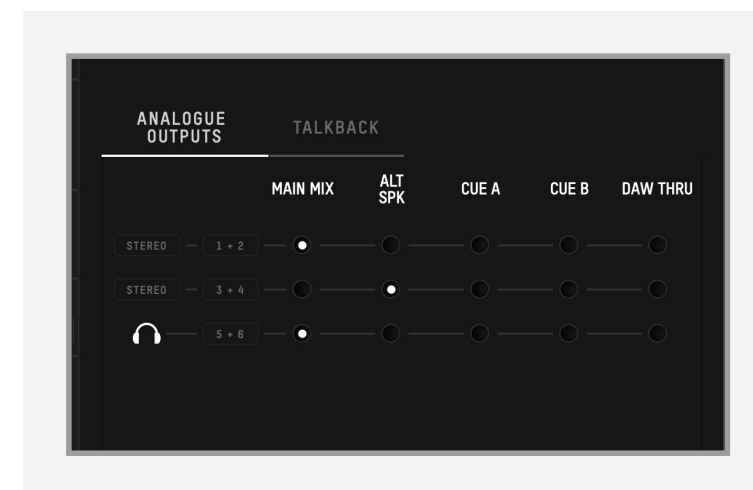
スクロールコントロールまたはモニター機能の一つを使うかを決定します。

ルーティングマトリクス

オーディオソースをどの出力にルーティングするかを以下のオプションから決めます。

- Main Mix/メインミックス- iD Mixerのマスターミックスから信号を取ります。これはスタンダードなプレイバックの設定です。
- Alt/オルタネート - iD Mixerのマスターミックスから信号を取り、Altスピーカーで再生します。
- Cue A & B - iD Mixerで作った異なる2つのCueミックスが選べます。ハードウェアのボリュームコントロールはこれらのミックスには動作しません。メインミキサーウィンドーで選ばれたCueミックスのみに動作します。

- DAW THRU – DAWに現れた通りの信号が出力ルーティングされます。例えば、アナログアウト1+2がダイレクトにDAW THRUにセットされると、DAWは出力1+2をアナログアウト1+2へ出力します。
DAW THRUでは、ボリュームコントロールはバイパスされ、信号はフルスケールで出力されます。これが直接モニタースピーカーへ出力されると、非常に大きな信号になります。この場合は、ヘッドフォンのみボリュームコントロールが効きます。



トークバックソース

トークバックソースは、iD14のインターナル入力、またはホストコンピューターに接続されているデバイス（内臓マイクまたは接続されているUSBマイク）からの信号です。

インプットをトークバックチャンネルとして選ぶと、iD Mixer内のチャンネルもTBボタンがセンターにあるトークバックチャンネルに変更されます。

外部デバイスを使っている場合は、トークバック信号はDAW6チャンネルに現れます。フェーダーは、メインミックスではなく、Cueミックスのチャンネルのみに現れます。

トークバックデバイス

外部デバイスが選ばれると、接続されているデバイスが使えるようになります。



ミキサープリセットのセーブ & ローディング

iD Mixerの設定は即座に保存できます。セッション中に異なるプリセットのセーブ&ローディングが可能です。

ミキサープリセットは以下の2つの方法でセーブ&ローディングが可能です。

- ファイルメニューでセーブ or オープンを選びます。
- キーボードのショートカットを使います
セーブ: Mac - Cmd + S, Windows - Ctrl + S
ロード: Mac - Cmd+ O, Windows - Ctrl + O

プリセットのセーブ

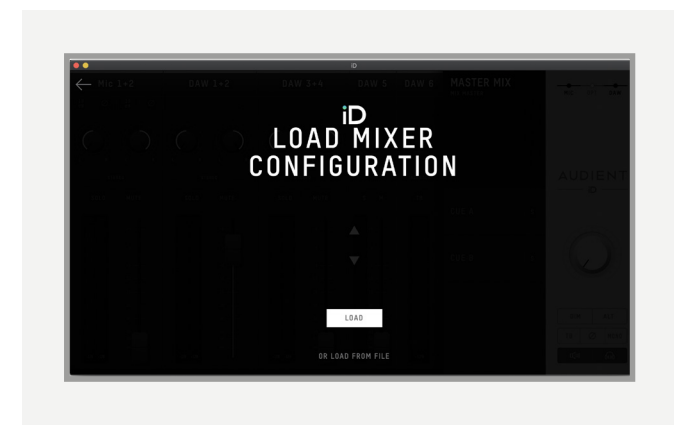
セーブしたいミキサー設定が決まったら、プリセットとしてセーブします。File > Saveで簡単にセーブできます。ミキサーウィンドーが表示されたら、プリセットネームを入力しSAVE（セーブ）を押します。



プリセットファイルは書き出しが可能ですから、友達にファイルを転送できます。さらに、DAWセッションファイル含めれば、後日プロジェクトの再現が容易に準備できます。Save スクリーンから Export Mixer Configuration を選択すれば完了します。

ミキサーファイルのロード

セーブしたプリセットのロードは、ロードスクリーンでFile > Openを選択します。

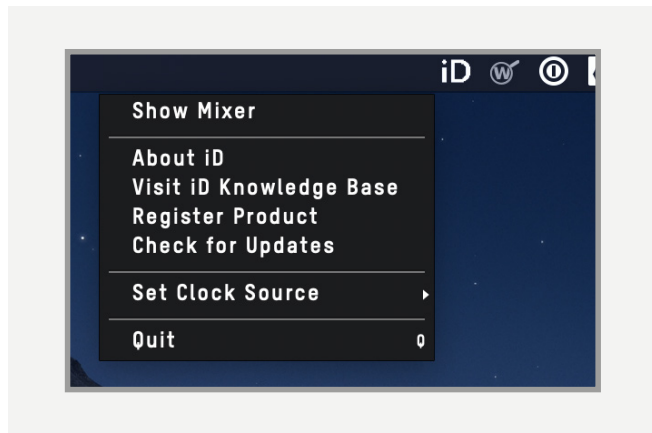


以前に保存したセッティングがリストに現れます。ロードしたいセッティングをクリックし、ロードします。また、ミキサーセッティングをLoad From Fileから直接選ぶこともできます。

メニュー/タスク・バー・アイコン

MacOS

スクリーン右上のメニューバーにiDアイコンが表示されます。ここからiD14のいろいろな機能にアクセスできます。



Quit

iD Mixerアプリを終了することができます。

About iD

iD Mixerアプリの現バージョンを表示します。

iDナレッジベース

ヘルプ機能やFAQが用意されたAudient Helpdeskを開くことができます。

Set Clock Source

内部とオプティカル入力へのクロックソースの確認&設定が行えます。

Check for Updates

Audientアップデートサーバーを確認し、ファームウェアのアップデートをチェックできます。

Windows

MacOSメニューバーアイコンと同じオプションとWindowsのスペシャルオプションが、Windowsのタスクバーにあります。



Set Sample Rate

iD14mkIIのサンプルレートが、44.1、48、88.2、96kHzから選べます。

Set ASIO Buffer Size

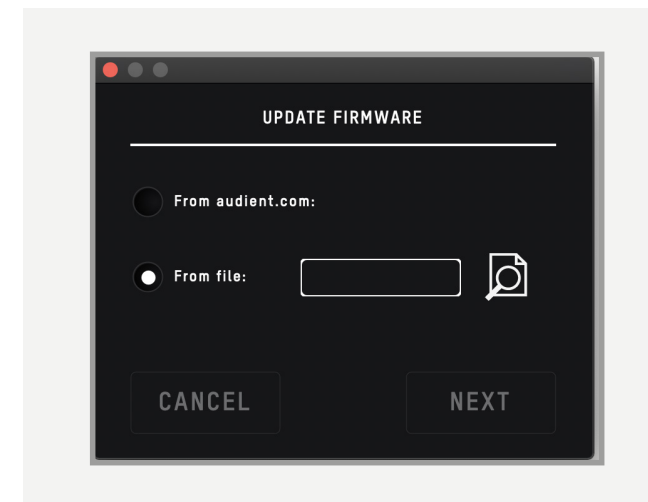
バッファサイズを16～4096サンプルから設定できます。高い値の設定はコンピューターのプロセッシング負荷を下げますが、その分レイテンシーが増加します。

ファームウェアのアップデート

バグ修正、機能向上、新機能の追加等を行うファームウェアのアップデートを行います。

時々、Check for Updatesでアップデートを確認してください。

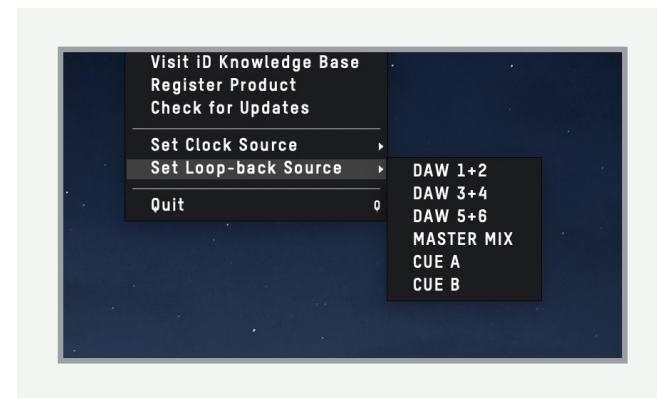
同様にiD Mixerアプリケーションもアップデートサーバーを確認しましょう。新しいリリースがあったら、最新版にアップデートすることをお勧めします。



このウィンドウのNEXTをクリックすると、iD14mkIIからのプレイバックが止まります。Updateをクリックするとアップデートが始まります。アップデート中、本機は何度かオフになります。

オーディオ・ループバック

iD14のソフトウェアミキサーには、ループバックオーディオ機能も搭載されており、コンピューター上の様々なアプリケーションからオーディオを録音またはストリーミングできます。iDミキサーでは、ループバックオーディオのソースが複数あり、iDメニューで調整できます。



ソースの選択肢は以下の通りです。

DAW 1+2 - iD14の出力1+2に送られるすべてのオーディオ

DAW 3+4 - iD14の出力3+4に送られるすべてのオーディオ

DAW 5+6 - iD14の出力5+6に送られるすべてのオーディオ

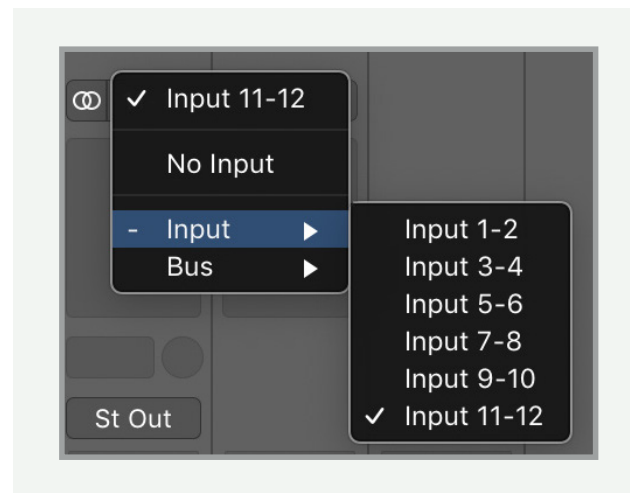
マスターミックス - iDミキサーのメインミックスパネルで作成されたオーディオミックス

キューA - iDミキサーのCUE Aパネルで作成されたオーディオミックス

キューB - iDミキサーのCUE Bパネルで作成されたオーディオミックス

ループバックミックスの使用

ループバックミックスを録音またはストリーミングするには、オーディオソフトウェアで入力11+12（入力3～10は追加のADAT入力用に確保されます）またはループバック1+2を選択します。表示される入力名は、DAWまたはオーディオソフトウェアによって異なります。



ループバック出力へのオーディオ送信

ほとんどのDAWやオーディオソフトウェアでは、オーディオ設定やミキサー画面でオーディオ出力を選択できます。設定方法の詳細については、ソフトウェアのマニュアルまたはドキュメントをご確認ください。

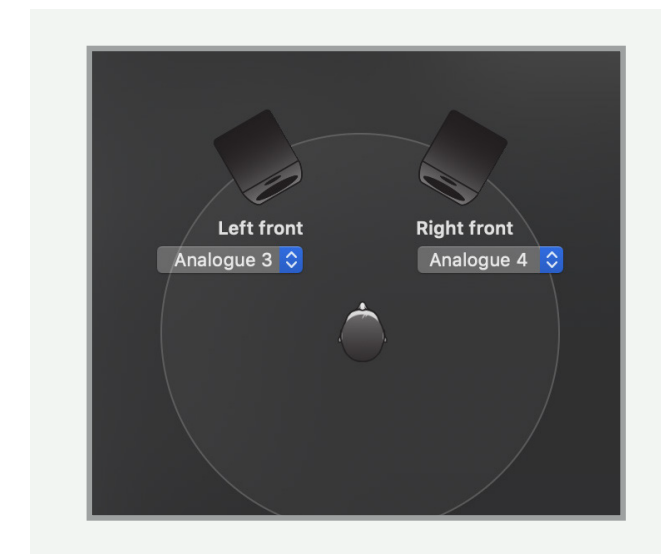
ただし、このオプションがないアプリケーションの場合は、システム設定を調整することで対応可能です。

MacOS

出力チャンネルを調整するには、Audio MIDI設定ユーティリティを起動する必要があります。このユーティリティは以下の場所にあります。

Finder > アプリケーション > ユーティリティ > Audio MIDI設定

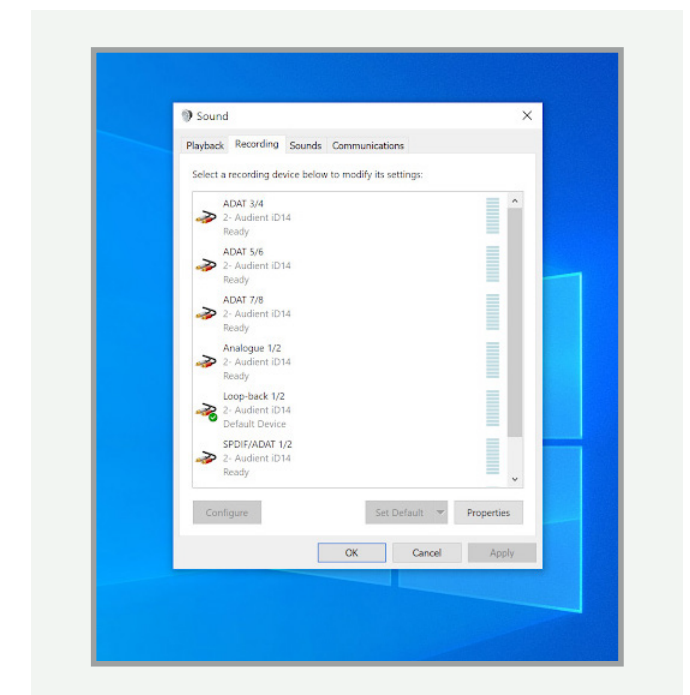
Macに現在接続されているオーディオデバイスのリストが表示されます。iD14を選択し、「Output/出力」パネルで「ConfigureSpeakers/スピーカーを構成」をクリックします。出力をループバック1とループバック2に設定します。



「Apply/適用」をクリックすると、コンピューター上のすべてのオーディオが iD ミキサーのこれらのチャンネルに送信され、メイン出力とは別のループバックミックスを設定して、引き続きモニタリングできるようになります。

Windows

Windowsでは、「Control Panel/コントロールパネル」の「Sound/サウンド」設定で出力チャンネルを簡単に変更できます。「Playback/再生」デバイスリストに移動し、出力デバイスとして「Output 3+4/出力3+4」または「Output 5+6/出力5+6」を選択してください。



Keyboard Shortcuts

キーボードショートカット

以下がiD Mixerアプリのショートカットテーブルです。

Location	Mac	Windows	Description
Faders	Alt + Click	Alt + Click	フェーダーをユニティーゲインへリセット (0dB)
Pans	Alt + Click	Alt + Click	パンポットをセンターへリセット
Solos	Cmd + Click	Ctrl + Click	全てのソロチャンネルをクリア ソロ設定されていないチャンネルをクリックすると、全てのソロが無効になります。
Meters	Alt + Click	Alt + Click	ピークホールド表示をクリア
System Panel	Cmd + S	Ctrl + S	ミキサー設定をセーブ
	Cmd + O	Ctrl + O	ミキサー設定をロード
View Modes	Cmd + 1	Ctrl + 1	Mic/Line入力を表示
	Cmd + 2	Ctrl + 2	Optical (Digital) 入力を表示
	Cmd + 3	Ctrl + 3	DAWミックス入力を表示
	Cmd + 4	Ctrl + 4	System/パネルを表示

最新アプリをチェックしてください。告知なしにショートカットが追加される場合があります。

audient.com/products/iD14

DAWセットアップ

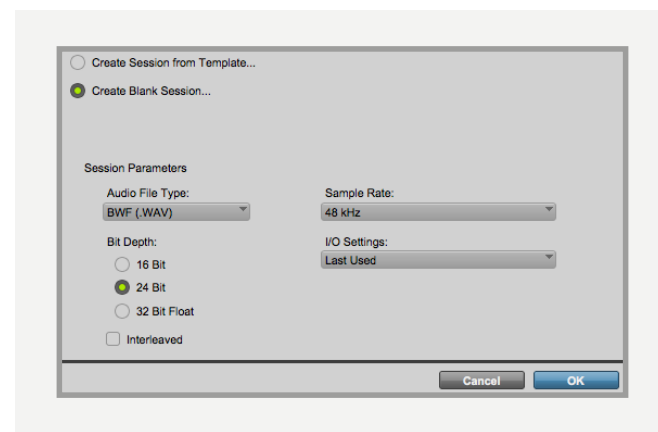


Pro Tools の設定

Pro Tools と使用する場合

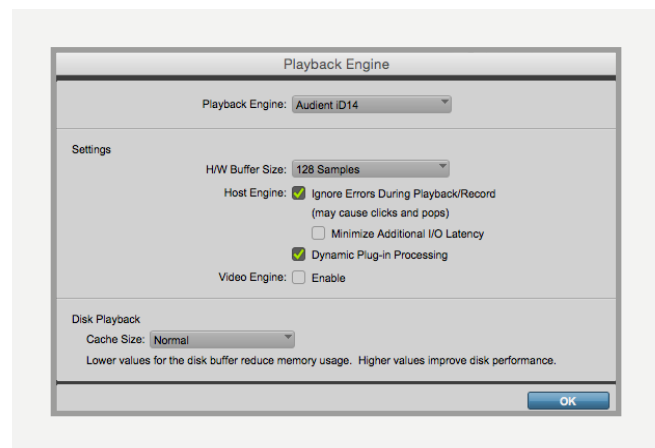
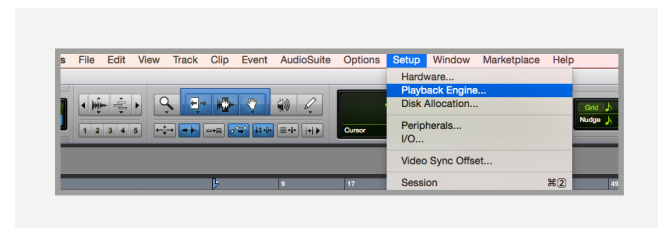
Windowsを使用している方は、インストールセクション（オーディオデバイスとしての設定）の設定を確認してください。インストールが完了したら、ProToolsを起動してサンプルレートの設定を確認してください。外部クロックを使用する場合、両方のサンプルレートを同一値に設定します。

Windows版をご使用の場合は、プロジェクトを開く前に、必ずiDアイコンよりレイテンシーとバッファサイズの設定を忘れないでください。これらの設定がProTools起動時に反映されます。

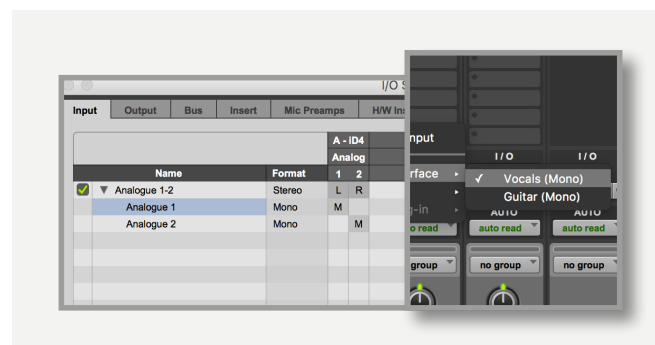


レイバックエンジン

Setup > Playback Engineで、プレイバックエンジンの設定に進みます。



I/Oセットアップ：セットアップからI/Oへ進みます。上記設定画面で、入力と出力の設定を行います。iD14の2入力/2出力が正しくルーティングされていることを確認してください。



※その他の設定に関しては、ProToolsの取扱説明書をご参照ください。

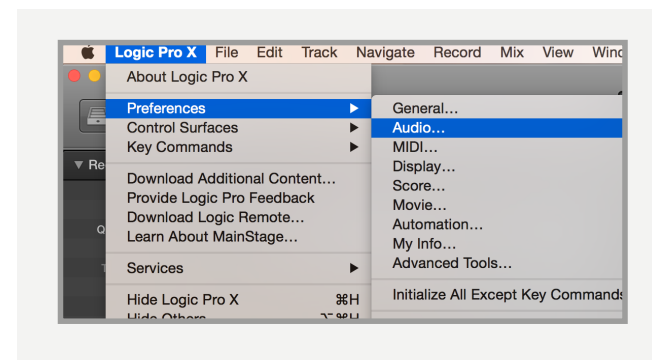


Logic Proの設定

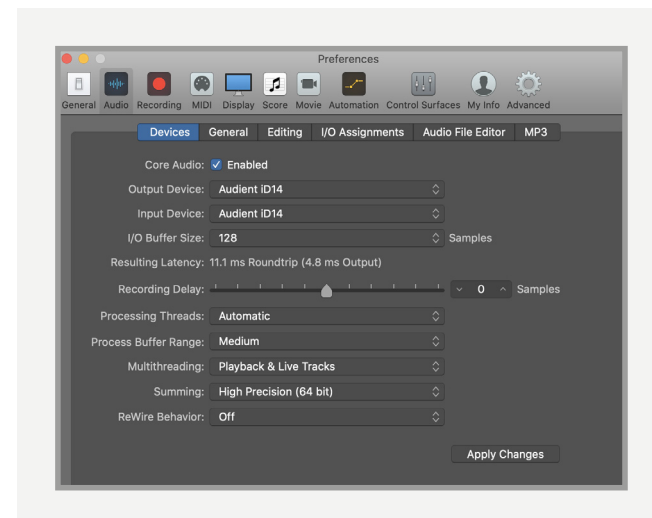
Logic Proと使用する場合

MacにiD14mkIIを接続し、LogicProを立ち上げます。この際、iD14mkIIが入出力デバイス（プレイバック用デバイス）に選ばれていることを確認してください。インストールが完了したら、下記の設定画面を開いてください。

Logic Pro > Preferences > Audio



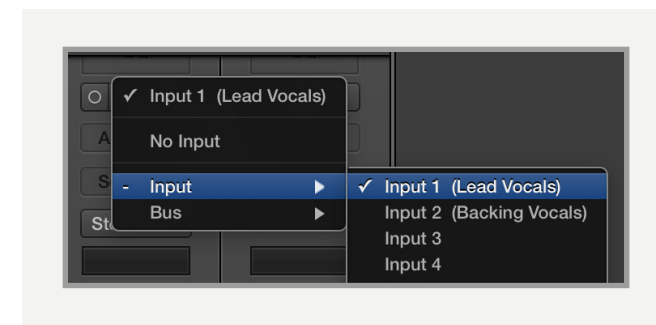
iD14mkIIがプレイバック用デバイスとしての設定を確認したら、適切なバッファサイズを設定します。Monitor Mixを入力モニターに使用している場合は、バッファサイズを比較的高く設定することをお勧めします。また、「オーバーロード」警告やノイズ、サウンドの歪みなどが発生した場合は、バッファサイズを大きく設定してください。



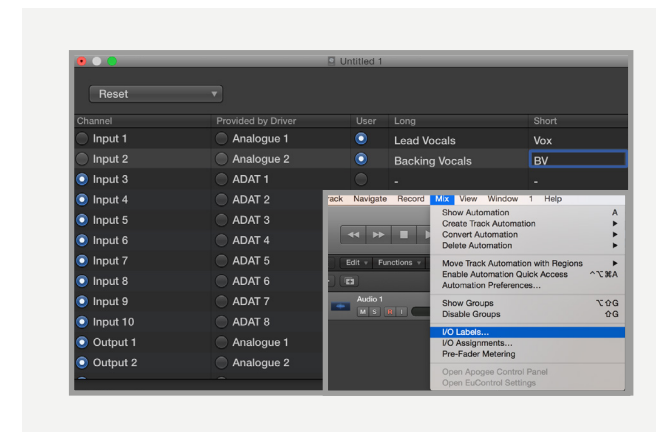
すでに、iDMixerをレコーディング時の入力モニターに使用している場合は、位相シフトによるショートディレイが聴こえてないように、Logicのソフトウェアモニタリングをオフにしてください。

入出力のアサイン

iD14mkIIの全入出力（10x入力、6x出力）は、Logicのルーティングから使用できます。それらの入出力はI/Oラベル機能で名前を付けることができます。



Mix/ミックス > 入出力レベル

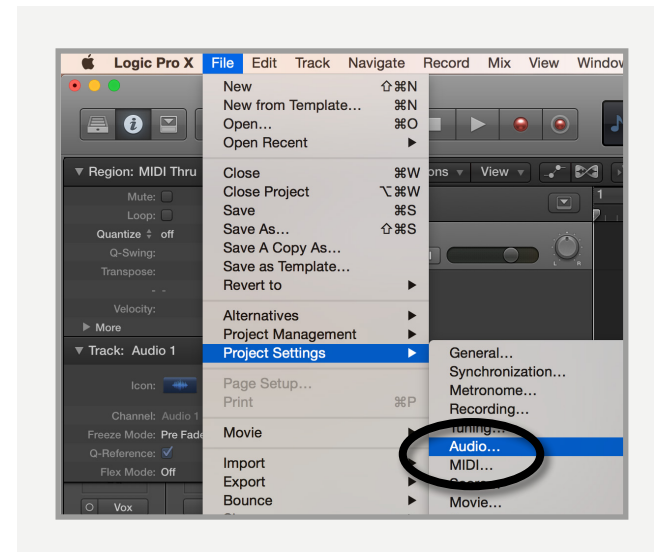


Cubase/Nuendoの設定

オペレーション

ADAT or S/PDIFからの外部クロックにiD14mkIIを同期しているのであれば、レコーディングやプレイバックの信号がシャープしたりフラットしないように、Logic側を外部機と同じサンプルレートに設定してください。

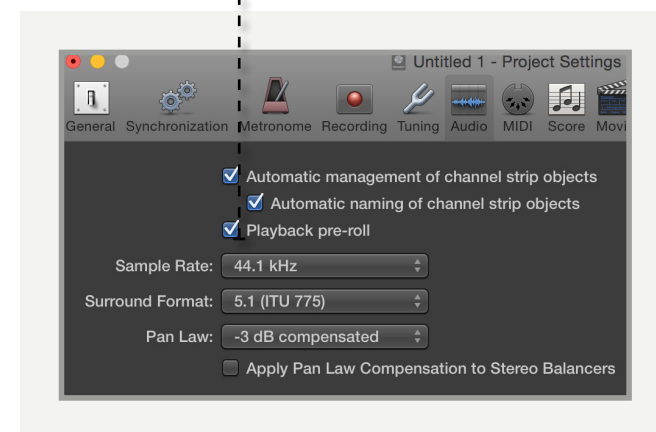
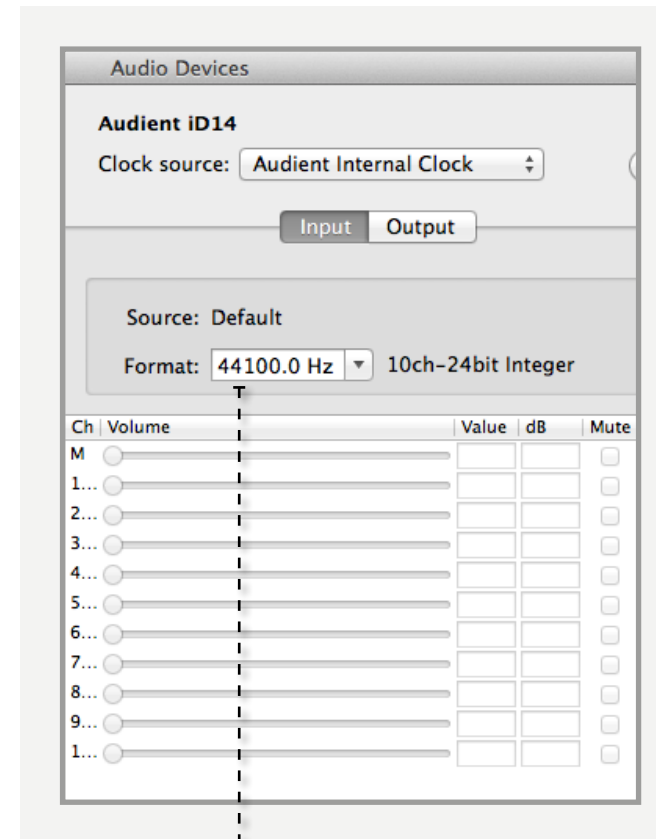
File > Project Settings > Audio



iD14mkIIを内部クロックで動作している際は、LogicはiD14mkIIに従いサンプルレートを更新します。再同期まで短いポーズがありますが、それは正常な状態です。

これは Audio MIDI 設定で確認できます。

Macintosh HD > アプリケーション > ユーティリティ



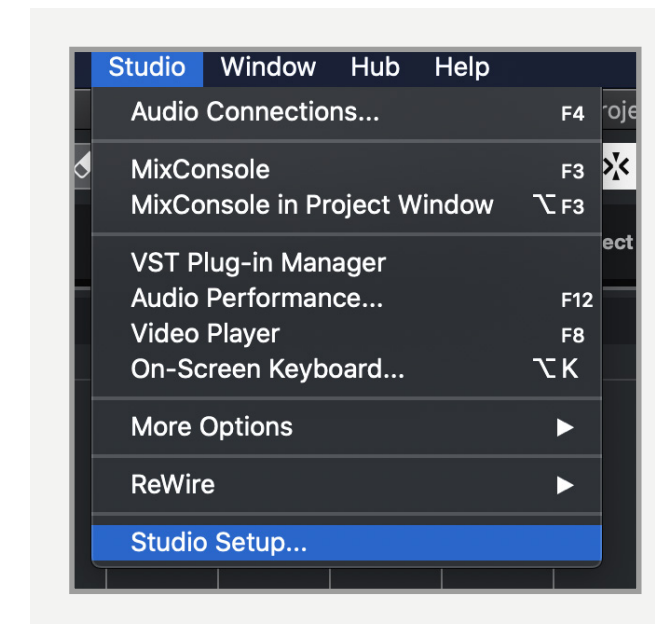
※その他の設定に関しては、Appleの取扱説明書等をご参照ください。

Cubase / Nuendoと使用する場合

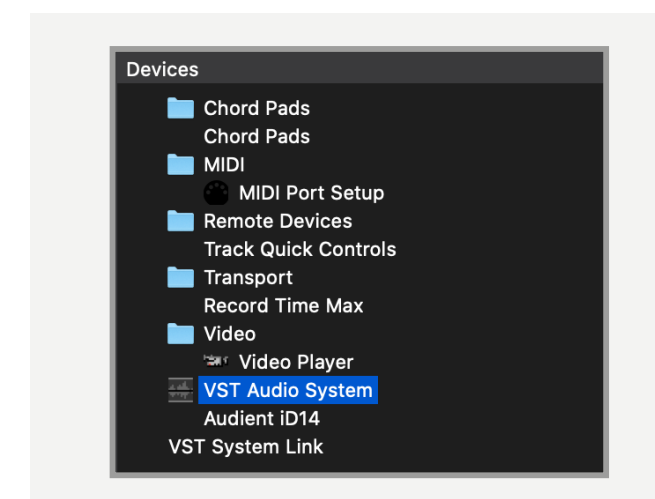
Windowsを使用している方は、インストールセクション（オーディオデバイスとしての設定）の設定を確認してください。

インストールが完了したら、Cubase or Nuendo を起動してデバイスメニューに入ります。

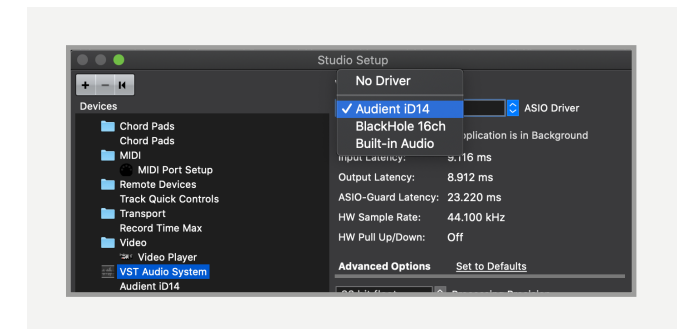
Studio > Studio Setup



図のようにデバイスメニューからVSTAudio Systemを選びます。



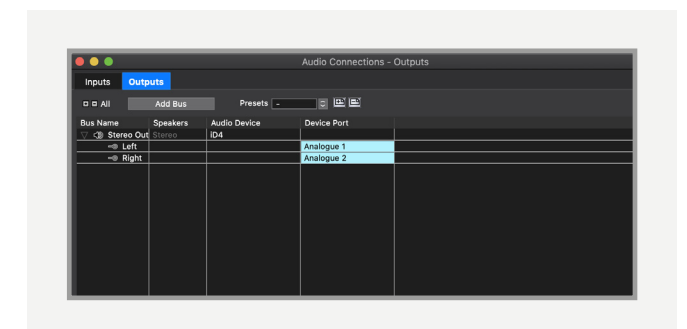
iD14mkIIがオーディオデバイスに選ばれていることを確認してください。「Switch」のメッセージをクリックしてください。



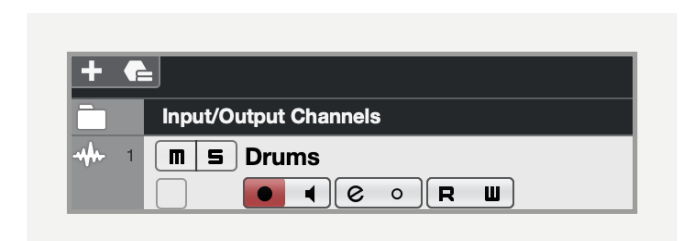
VSTデバイスセットアップパネルを閉じ、オーディオ接続パネルへ移ります。

Devices > Audio Connections (F4)

Cubase / Nuendo中に作られた全バスを確認してください。それら全てのポートはセッションで使用できます。必要であればそれらをI/Oに割り当ててください。



iD14mkIIのミキサーアプリで入力をモニターしているのであれば、トラックの入力モニターはオフになっていることを確認してください。

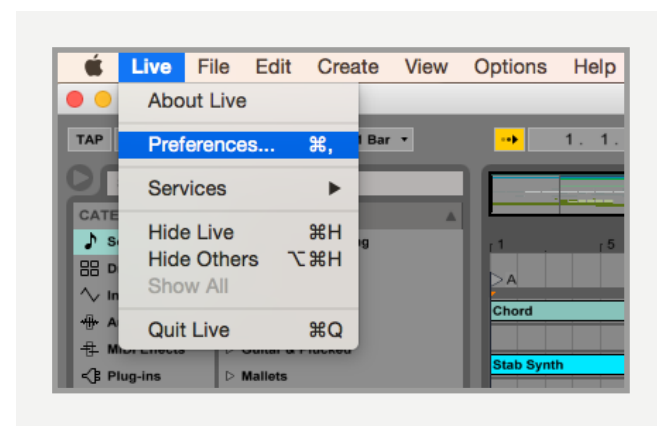


III Ableton Live の設定

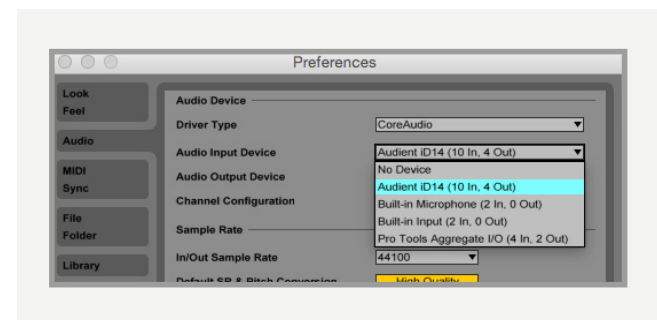
Ableton Liveと使用する場合

Windowsを使用している方は、インストールセクションの設定（オーディオデバイスとしての設定）を確認してください。インストールが完了したら、Ableton Liveを起動してデバイスメニューに入ります。

Live > Preferences > Audio

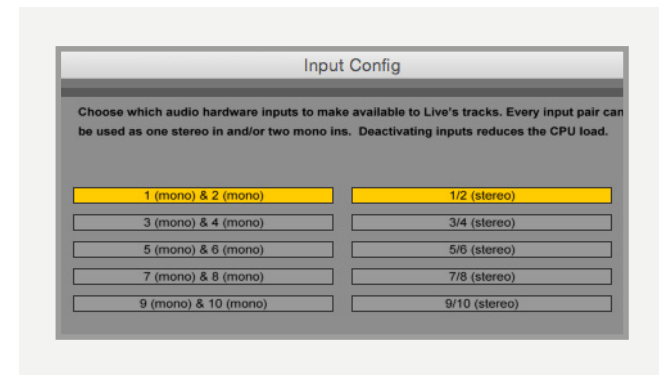


iD14mkIIがオーディオデバイスに選ばれていることを確認してください。また、適切なサンプルレートとバッファサイズも設定してください。



Liveのオーディオ設定パネルで、適切なバッファサイズを設定できます（iDミキサー経由で録音用の入力信号をモニタリングする場合は、この値を高く設定できます）。iD14がLiveに10入力4出力デバイスとして告知されていることを確認してください。

必要に応じて、入出力設定タブを使用して、Liveで（ドライバーから）アクティブ入力として報告されるI/Oチャンネルの数を制限することができます。これは、すべてのチャンネルが必要ない場合にCPU負荷を減らす優れた機能です。



トラブルシューティング & FAQ

本機に電源が入らない。

USBケーブルが正しく接続されているか確認してください。お使いのPC/MACのUSB給電仕様や、USBハブや接続ポートを再確認してみてください。

DAWの再生時にクリックやポップノイズが出る。

まず、設定されているバッファサイズの値が小さすぎることが考えられます。また、使用しているプラグインやソフトシンセ等が多すぎることも考えられます。レコーディング時は、レイテンシーを少なくするためにバッファサイズ小さく設定しがちですが、ミックス時はその必要はありません。

iD14mkIIをコンピューターに接続すると、本機からオーディオが再生できない。

まず、iD14mkIIとコンピューター間のUSBケーブル接続を再確認してください。さらに、iD14mkIIがDAWの再生デバイスに設定されているかの確認も必要です。

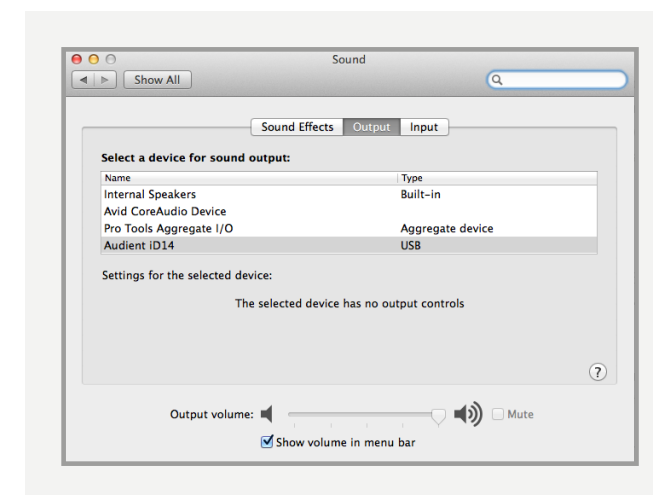
最後に、モニターミックスノブをDAWにセットします。

システム環境設定 > サウンド > 出力タブ
> Audient iD14 (macOS)

コントロールパネル > ハードウェアとサウンド
> サウンド > サウンドデバイスを管理する
> Audient iD14 (Windows)

コンピューターとiD14mkIIのコミュニケーションのためにiD Mixerアプリを起動します。これは電源を入れた時に一度だけ行います。ID14mkIIが動作状態になったら、このアプリを終了してください。

ソフトウェアミキサーの中で、DAWビューボタンを押しDAWチャンネルを見つけ、DAW1+2フェーダーでレベルを上げます。



iD14mkIIが外部ADATまたはSPDIFと同期できない

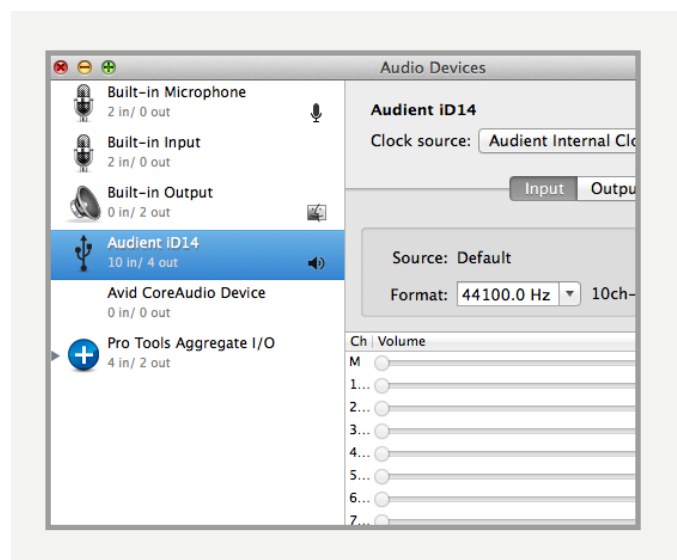
両機が同期していない時、ステータスLEDはレッドかイエローが点灯します。レッド点灯時は外部デバイスからのクロックが感知できない場合。イエロー点灯時はクロック信号は受けているが、サンプルレートが一致していない場合です。

OSXでサンプルレートを変更する場合は、Audio MIDI セットアップで行います。

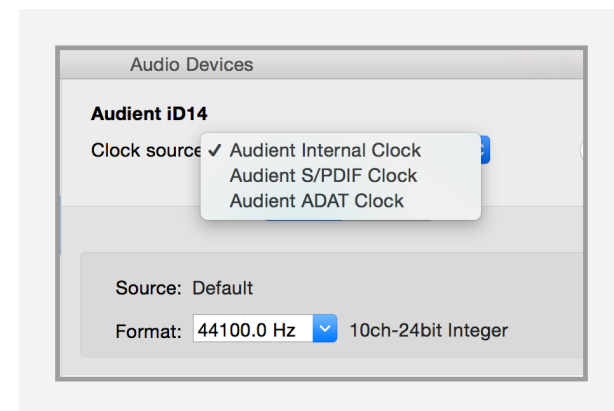
Macintosh HD > アプリケーション
> ユーティリティ> Audio MIDI 設定

Audient iD14がオーディオデバイスとして認識されていることを確認してください。

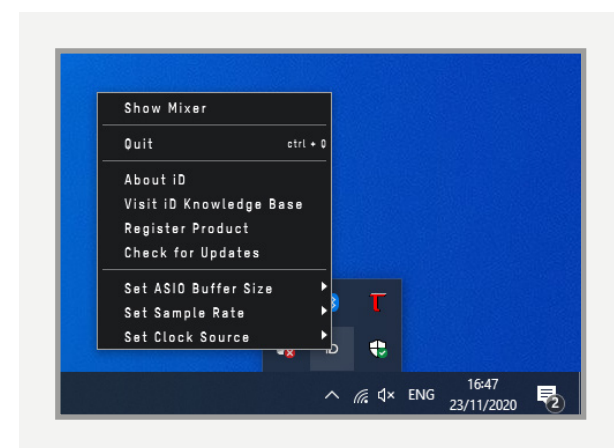
ウィンドウ > オーディオウィンドウを表示



クロックソースを再確認してください。また、正しいサンプルレートが表示されているかも確認してください。



Windowsを使用されている場合は、システムトレイにあるiDアイコンを右クリックします。すると、サンプルレート等のセッティングが表示されます。それらの値はiDアプリのセットアップでも変更できます。外部のADATデバイスのサンプルレートも変更してください。



トラブルシューティング (続き)

iD Mixerアプリのデフォルト設定にリセットしたい

iD Mixerアプリのリセットは、iDアプリを完全に終了し、フォルダー内にあるstate.xmlを以下の手順でデリートします。再スタートは新しいアプリをインストールしなおしてください。

Macintosh HD > ライブラリ

> Application Support > Audient > iD
> state.xml

OS (C:) ドライブ > ユーザー > (ユーザー名)
> AppData > Roaming > Audient > iD
> state.xml

セーブしたiD Mixerプリセットが入ったフォルダーは、デリートしないでください。

iDのファームウェア/ソフトウェアの最新バージョンを入手したい

<https://audient.com/products/id14/downloads> から最新ドライバーをダウンロードしてインストールしてください。

インターネット接続時にiDアプリからファームウェアのリリース情報をお知らせします。ファームウェアアップデートに関する詳細は、このユーザーマニュアル[13ページ](#)をご覧ください。

FAQs

FAQについては
<https://allaccess.co.jp/audient/>
ページをご覧ください。

製品仕様



D.I /インストルメント入力

ゲインレンジ: 40dB
フルスケールレベル: 12dBu = 0dBFS
THD+N @ 0dBu: 0.1%
SNR: 100dBu (A-特性負荷)
周波数特性 – 最小ゲイン ±0.5dB 10Hz to 20kHz
1/4”TS ジャック: チップ (ホット)、スリーブ (シールド)

ADコンバーター

THD+N @ -1dBFS: 0.001%
ダイナミックレンジ: 120dB (A-特性負荷)
CORR: >80dB
周波数特性: ±0.5dB 10Hz to 40kHz

デジタル入力

8-チャンネル ADAT: 44.1kHz~48kHz
4-チャンネル ADAT: 88.2kHz~96kHz SMUX
STEREO S/PDIF / TOSLINK: 44.1kHz to 96.0kHz (Stereo)

ヘッドフォン出力 (100k負荷で測定)

フルスケールレベル: 18.5dBu = 0dBFS
THD+N @ -1dBFS: 0.0009%
ダイナミックレンジ: 125.5dB (A-特性負荷)
クロストーク: >116dB
周波数特性: ±0.25dB 10Hz to 40kHz
最大レベル @ 30Ω: 2.59V Peak, 1.827V RMS, 223mW
最大レベル @ 62Ω: 4.18V Peak, 2.95V RMS, 280mW
最大レベル @ 600Ω: 7.72V Peak, 5.46V RMS, 100mW
1/4”TRS ジャック: チップ (L)、リング (R)、スリーブ (シールド)

マイクロフォンプリアンプ

ゲインレンジ: 58dB
フルスケールレベル: 12dBu = 0dBFS
MIC 最大入力レベル: 12dBu
最大入力レベル: 21dBu
入力インピーダンス (Mic): 2.8k
入力インピーダンス (Line): >8k
THD+N @ 0dBu 0.00170%
THD+N @ 0dBu 最大ゲイン <0.04%
SNR: 101dBu (A-特性負荷)
EIN: 129dB (A-特性負荷)
CMRR @ 1k: >75dB
周波数特性 – 最小ゲイン ±0.5dB 10Hz to 40kHz
XLR COMBI FEMALE: Pin 2 (Hot)、Pin 3 (Cold) & Pin 1 (シールド)
1/4”TRS ジャック: チップ (Hot)、リング (Cold)、スリーブ (シールド)

ライン出力 (DAC)

フルスケールレベル: 12dBu = 0dBFS
THD+N @ -1dBFS: 0.0006%
ダイナミックレンジ: 125.5dB (A-特性負荷)
クロストーク: >120dB
周波数特性: ±0.1dB 10Hz to 40kHz
1/4”TRS ジャック: チップ (L)、リング (R)、スリーブ (シールド)

USB-C ハイスピード

バスパワー:
最低位スペック: 0.9A @ 5V >=USB 3.0 Port
最高位スペック 1.5A @ 5V
入力チャンネル数: 2 (2 アナログ)
出力チャンネル数: 2 (2 アナログ)
DSP ミキサーレイテンシー:
44.1kHz 0.65mS
48.0kHz 0.6mS
88.2kHz 0.33mS
96.0kHz 0.31mS

品質保証に関して

本機は、audient日本総代理店 オールアクセスインターナショナル株式会社が、購入後1年以内の品質保証を行っております。修理の際は、購入時の保証書（購入期日及び販売店捺印必須）を提示の上、ご購入の販売店に御依頼ください。保証書の提示が無い場合、保証内であっても1年以内の保証の対象にはなりません。

本書に記載された文章、図版、作品は、全て「著作権」及び、それに付随する「著作隣接権」等の諸権利を保有しています。弊社では内容を理解することを目的とする使用方法のみを許諾しております。

▲警告:安全のため、特に注意していただくこと

1. 異常があるときは、電源プラグをコンセントから抜いてご購入先もしくは、弊社迄ご連絡ください。異常な音がしたり煙が出て異臭がした時などは、電源プラグをコンセントから抜いてください。
2. 電気ショックを避けるため、本体を絶対に開けないでください。内部に触ると感電する恐れがあります。内部の調整や修理は、弊社にご依頼ください。また、火事や感電を避けるために、湿度が非常に高い場所に置いたり、雨天の際に野外で使用することは避けてください。

▲警告:次のような場所での使用はできる限り避けてください。

- 湿度の非常に高い場所
- 砂やほこりが多い場所
- 台所、バスルーム、湿気の多い地下室など、水のかかりやすい場所
- 空気の循環を妨げる場所、ヒーターの近くや温度が高い場所

■取り扱いについて乾いた柔らかい布のみを使用して、外装をきれいに保ちましょう。

サイズ

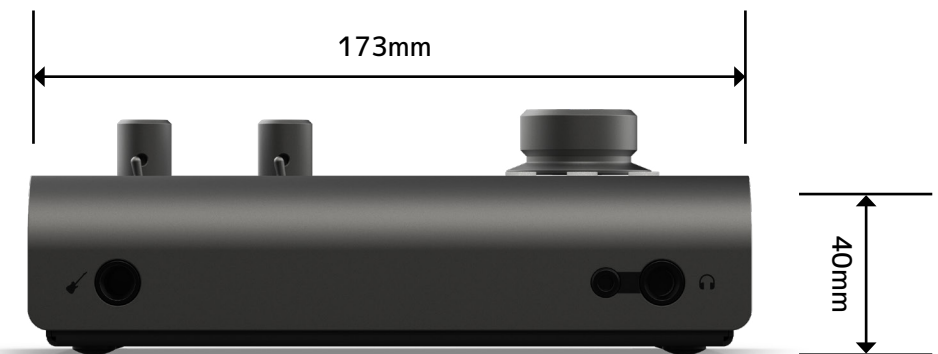
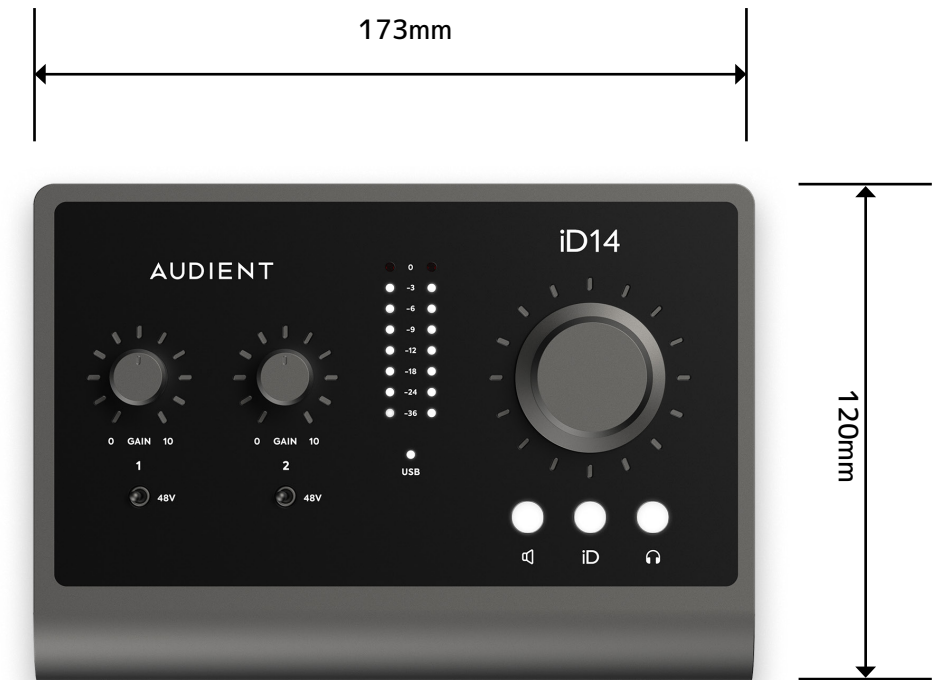
■サービスについて このマニュアルに記載されていない操作や取り扱いを行わないでください。
記載外の使用方法で本機を使用されますと製品不良が発生する場合があります。
必ず本書に基づいた使用方法で使用してください。

記載外の使用方法による破損や修理は、保証期間中の機器であっても保証対象外になります。
本体の取扱いは慎重に行ってください。
万が一、負傷された場合でも弊社では一切の責任を負いません。

修理が必要な場合は、購入先もしくは弊社へ（メールのみの対応です。）ご連絡ください。

Web: <https://allaccess.co.jp>

Mail: audient@allaccess.co.jp



AUDIENT

audient 日本輸入総代理店

オールアクセスインターナショナル株式会社

WEB : <https://allaccess.co.jp/audient/>

E-mail : audient@allaccess.co.jp

〒490-1116 愛知県あま市本郷三反地21番地